

7-7 技術課題対応WG

1. WG 設置主旨

本WGでは、建設コンサルタントが抱える様々な技術についての課題、懸案事項について、協会本部の各部会の境を越えて活動するために、常任理事会直下のWGとして設立した。

2. 主な活動と今後の展開方針

活動の主体は、以下のSWGで行うこととしており、SWG活動の連携を図るために、12/22にWGを開催した。

(1)SWG 活動

a) CIM 対応 (加藤 SWG 長)

- ・CIM 導入ガイドラインのフォローアップ；ガイドラインの充実を支援
- ・CIM モデル作成にかかる工数；歩掛改定要望
- ・属性設定のあり方検討；数量の自動集計、ソフト開発・改良要望
- ・施工計画の基礎データ提供内容の確認；フロントローディングとしての機能

今後は、技術部会の中の委員会として、専門的に活動を行えるような組織化を整理するつもりである。

b) 公益活動 (鈴木 SWG 長)

協会の公益に資する活動を幅広く扱うことを目的として設置。

- ・コンサルタント相互の技術支援制度の創設
- ・発注者からの技術相談窓口の設置
- ・国総研、土研との分野別実務者レベルの意見交換会の開催
- ・本部、支部活動成果（技術資料）の共有並びに発注者への配布

現時点では、橋梁の技術相談窓口の活動のみとなっており、活動項目について再度整理して、活性化を図る予定である。

c) 業務体系 (万名 SWG 長)

建設コンサルタントの事業領域のうち、主として、社会資本の建設や維持管理・更新事業における建設コンサルタントの役割について、協会としての基本的なスタンスについて検討する。

- ・各入札契約方式特性を整理し、調査～施工に至る各段階における建設コンサルタントの役割分担を確認する。

①橋梁保全事業における調査、設計及び施工の契約方式のあり方（橋建協・PC建協との勉強会を継続していく）。

②自供特性に応じた多様な入札契約方式における建設コンサルタントの役割、関与のあり方

d) 改定道路橋示方書対応 (鈴木 SWG 長)

協会員が、速やかに改定道路橋示方書の内容を理解し、調査・設計業務に反映させるため、改定のポイントと内容を周知するとともに、勉強会・講習会等を開催する。

- ・講習会テキストの作成、国総研との勉強会を予定
- ・講習会の企画と開催
- ・改訂道路橋示方書の内容に関する質問受付・回答案の作成及び国総研への確認
- ・道路橋技術相談窓口との調整・連携、質問への回答
- ・ソフト開発会社との勉強会と新ソフトの動作確認

設計計算例についての講習会は、1月に予定していたが、設計計算例の出版（道路協会）が遅れたため、次年度はじめに延期。本省・道路協会と協議（論点：開催時期、テキストの転写許可範囲、国総研の協力の有無、具体的な講習プログラム）を経て決定することとした（平成30年6月に開催予定）。

e) 自動運転 (藤井 SWG 長)

自動運転に関する関連情報を収集して整理し、協会員に提供するとともに、勉強会開催等を実施するために、平成30年2月に設置した。

3. 次年度について

今後とも、記述したSWGを主体とした活動を継続するとともに、新たな技術課題が発生した段階で、WGを開催し、課題解決のために必要に応じてSWGを追加していくこととしたい。

(技術課題対応WG WG長 渡邊 浩)